

## 専 門 基 礎 分 野

授業科目(必須)	人体の構造と機能(人体の概要と発生)	担当講師													
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(15時間)												
教科書等	系看 解剖生理学[1] (医学書院)														
<p>ねらい</p> <p>看護の対象である人間を生物学的側面から捉え、人体を構成する組織・器官から細胞までの用語の概念を、医学共通の基本的知識として理解する。さらに、人体の発生と生命の連続性としての機能及び、構造を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の概要を理解する。</li> <li>2. 人体の発生のメカニズムを理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <p>《人体の概要と解剖学用語》</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 人体の概要</td> <td style="width: 50%;">2. 解剖学用語</td> </tr> </table> <p>《人体とその構成》</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 人体の構成</td> <td style="width: 50%;">2. 系統とその機能</td> </tr> <tr> <td>3. 細胞の形態・構造・分裂・特性</td> <td>4. 組織の種類とその構成</td> </tr> </table> <p>《人体の発生》</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 生殖細胞</td> <td style="width: 50%;">2. 性染色体と性の決定</td> </tr> <tr> <td>3. 原胚子の分割とその後の発生</td> <td>4. 胎児の栄養と胎盤</td> </tr> </table> <p>《生殖器》</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 男性生殖器の構造と機能</td> <td style="width: 50%;">2. 女性生殖器の構造と機能</td> </tr> </table> <p>《遺伝》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遺伝とは</li> <li>2. ヌクレオチドと核酸、DNAの複製</li> <li>3. 転写と翻訳</li> </ol> <p>方法      講義             解剖見学実習(全講義終了後)</p>				1. 人体の概要	2. 解剖学用語	1. 人体の構成	2. 系統とその機能	3. 細胞の形態・構造・分裂・特性	4. 組織の種類とその構成	1. 生殖細胞	2. 性染色体と性の決定	3. 原胚子の分割とその後の発生	4. 胎児の栄養と胎盤	1. 男性生殖器の構造と機能	2. 女性生殖器の構造と機能
1. 人体の概要	2. 解剖学用語														
1. 人体の構成	2. 系統とその機能														
3. 細胞の形態・構造・分裂・特性	4. 組織の種類とその構成														
1. 生殖細胞	2. 性染色体と性の決定														
3. 原胚子の分割とその後の発生	4. 胎児の栄養と胎盤														
1. 男性生殖器の構造と機能	2. 女性生殖器の構造と機能														
<p>評価方法</p> <p>授業終了後、筆記試験</p>															
<p>その他</p> <p>生物的側面から人間を理解する最も基本的な知識なので、生体の位置、構造、機能を正確に専門用語を使って理解し、看護援助のエビデンスに活用できることを目指してください。</p>															

授業科目(必須)	人体の構造と機能(呼吸・循環・血液)	担当講師	
開講時期、対象学年	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看 解剖生理学[1] 解剖生理学 医学書院		
<p>ねらい</p> <p>人間の生命維持機能として呼吸、循環、血液、リンパ系の構造と機能を関連づけて理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸の機構(換気と発声、ガス交換、ガスの運搬、呼吸調節)を理解する。</li> <li>2. 循環系の構造と機能(心臓、血管系、リンパ系)を理解する。</li> <li>3. 血液と生体の防御機構を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <p>《呼吸》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸をつかさどる器官の構造</li> <li>2. 呼吸のしくみ</li> </ol> <p>《循環》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環をつかさどる器官の構造</li> <li>2. 循環のしくみ</li> </ol> <p>《血液とリンパ液》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液の造血をつかさどる器官の構造</li> <li>2. 血液のはたらき</li> <li>3. 免疫細胞のはたらき</li> <li>4. リンパ管とリンパ性器官の構造</li> </ol> <p>方法 講義</p> <p>[解剖見学実習(全講義終了後)]</p>			
<p>評価</p> <p>授業終了後、筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>人間が生活体として活動していく際の身体的状況を反映する重要な指標としてバイタルサインがある。看護援助の根拠となるので機能とメカニズムを関連づけて理解し、アセスメントに活用する。</p>			

授業科目(必須)	人体の構造と機能(消化、栄養、代謝)	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等	系看 専門基礎 解剖生理学[1] 医学書院 系看 専門基礎 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院		
<p>ねらい</p> <p>生命活動に必要な栄養を摂取し体内に蓄え、不要物を排泄するメカニズムについて、構造と機能に関連づけて理解する。また、栄養素の働きと代謝についても関連づけて理解する。</p> <p>目標</p> <p>1. 栄養摂取の機構(食欲、咀嚼、嚥下、消化と吸収、代謝)を理解する。</p> <p>授業内容</p> <p>《消化・吸収・排泄》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化・吸収をつかさどる器官の構造</li> <li>2. 食欲・空腹感</li> <li>3. 口腔内における消化</li> <li>4. 食道の作用</li> <li>5. 胃における消化</li> <li>6. 小腸における消化・吸収</li> <li>7. 大腸の作用</li> <li>8. 胆のうの作用</li> <li>9. 肝臓の作用</li> </ol> <p>《栄養と代謝》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖質と糖質代謝</li> <li>2. 脂質と脂質代謝</li> <li>3. 蛋白と蛋白代謝</li> <li>4. 酵素</li> <li>5. 水と無機質</li> <li>6. ビタミン</li> <li>7. 代謝の意義</li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 〔解剖見学実習(全講義終了後)〕</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>日常生活を営んでいる人間の生物体としての側面から人体をとらえ、正常時の構造・機能を理解し、看護援助を实践する時の根拠となる知識となります。フィジカルアセスメントする際の最も基本的な知識となりますので、確実な知識の習得をめざして下さい。</p>			

授業科目(必須)	人体の構造と機能(腎泌尿器系、内部環境の調節)	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看 解剖生理学[1] 解剖生理学 医学書院		
<p>ねらい</p> <p>生体の内部環境を維持するために、尿の生成・体液及び電解質が支える物流機構、内分泌系による調節機構の構造及び機能について理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排泄の機構(尿の生成、細胞外液の調節、排尿、排便)を理解する。</li> <li>2. 内分泌系(ホルモン、ホルモン分泌の調節、機能)を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <p>《泌尿器系》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腎臓の構造と機能</li> <li>2. 尿路系の構造と機能</li> </ol> <p>《体液と電解質》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体液とは</li> <li>2. 体液の保持</li> <li>3. 電解質の保持</li> <li>4. 酸塩基平衡とその調節</li> </ol> <p>《内分泌》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホルモンを分泌する器官の構造</li> <li>2. ホルモンの役割と分泌機序</li> </ol> <p>《体温とその調節》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体温の産生と放散</li> <li>2. 体温の調節と異常</li> </ol> <p>方法            講義                   〔解剖見学実習(全講義終了後)〕</p>			
<p>評価</p> <p>授業終了後、履修試験</p>			
<p>その他</p> <p>尿の生成及び体液、電解質が生命体の内部環境保持の重要な因子であることを理解し、看護実践のアセスメントの根拠とすることができる。</p>			

授業科目(必須)	人体の構造と機能(骨格・筋肉・神経・感覚器)	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看 解剖生理学[1] 解剖生理学 医学書院		
<p>ねらい</p> <p>人体を形成している骨格と筋について位置、構造と機能に関連づけて理解する。生体が個体として生きていくために外界からの刺激や情報を各器官がどのように受容し、調和のとれた働きができるのかについて神経性調節及び感覚器を認識と関連づけて理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨格、骨格筋の位置構造と機能を理解する。</li> <li>2. 神経系の身体各部との関連、機能を理解する。</li> <li>3. 感覚の構造と機能を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <p>《骨格》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨格を構成する器官の構造</li> <li>2. 骨の連結</li> </ol> <p>《筋肉》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨格筋の形状とはたらき</li> <li>2. 主な骨格筋の構造</li> </ol> <p>《神経》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経を構成する器官の構造と機能</li> <li>2. 末梢神経を構成する器官の構造と機能</li> <li>3. 脳神経系による情報処理能力</li> </ol> <p>《感覚器》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚器の構造と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 眼</li> <li>2) 耳鼻咽喉</li> <li>3) 皮膚</li> </ol> </li> </ol> <p>方法 講義 〔解剖見学実習(全講義終了後)〕</p>			
<p>評価</p> <p>授業終了後、履修試験</p>			
<p>その他</p>			

授業科目(必須)	微生物学	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看専門基礎3・疾病の成り立ちと回復の促進[3]微生物学(医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>微生物の特徴と生体におよぼす影響及び病原微生物について理解し、感染予防について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物学の概念と変遷を理解する。</li> <li>2. 感染と発病を理解する。</li> <li>3. 微生物の種類と特徴を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物学の概念と変遷 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 微生物学の歩み</li> <li>2) 微生物学と看護</li> <li>3) 微生物の分布と人体</li> </ol> </li> <li>2. 感染と発病 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境と栄養</li> <li>2) 人体と感染防御機構と免疫反応</li> <li>3) 感染・発病を規定する要因</li> <li>4) 常在細菌叢</li> <li>5) 感染源と感染経路</li> <li>6) 病原微生物の感染経路と潜伏期間</li> <li>7) 化学療法と薬剤耐性菌</li> </ol> </li> <li>3. 微生物の種類と特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細菌</li> <li>2) ウイルス</li> <li>3) 真菌</li> <li>4) 原虫</li> </ol> </li> <li>4. 感染予防の手段 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 滅菌と消毒</li> <li>2) 伝染病の予防</li> </ol> </li> </ol> <p>方法      講義、実験</p>			
<p>評価</p> <p>筆記試験(前半・後半の2回にわけて実施)</p>			
<p>その他</p> <p>看護は健康上に問題を持つ人が対象です。健康障害の主たる原因である微生物について、正しく理解することが求められます。</p>			

授業科目(必須)	病理学総論	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次、後期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等	系看専門基礎4・疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 (医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>疾病の原因や発生病理の形態と機能および代謝変化のメカニズムを理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異常状態に影響する個人の条件(免疫、代謝異常、老化、先天異常)を理解する。</li> <li>2. 細胞や組織に生じる変化(炎上、変性、壊死、循環障害、腫瘍など)を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学とは</li> <li>2. 先天異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 奇形と遺伝性疾患</li> <li>2) 奇形の種類</li> <li>3) 遺伝の関与しない奇形</li> <li>4) 遺伝の関与する奇形</li> <li>5) 遺伝異常による疾患</li> <li>6) 遺伝性疾患の診断と治療</li> </ol> </li> <li>3. 代謝障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 萎縮と肥大</li> <li>2) 変性</li> <li>3) 壊死</li> </ol> </li> <li>4. 循環障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環器系の概要</li> <li>2) 循環血液量の障害</li> <li>3) 閉塞性の循環障害</li> <li>4) 側副循環</li> <li>5) リンパの循環障害</li> </ol> </li> <li>5. 炎症と免疫 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 炎症の原因と免疫反応</li> <li>2) 炎症の各型</li> <li>3) 免疫と疾患</li> <li>4) 炎症の治療</li> <li>5) 損傷修復と再生</li> </ol> </li> <li>6. 腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 腫瘍の定義と分類</li> <li>2) 悪性腫瘍の転移と進行度</li> <li>3) 腫瘍の発生病理</li> <li>4) 加齢と悪性腫瘍の発生</li> <li>5) 腫瘍の診断と治療</li> </ol> </li> <li>7. 移植</li> <li>8. 多臓器不全</li> </ol> <p>方法 講義</p>			
<p>評価</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>健康が障害されたとき、からだの中ではどのようなメカニズムが働いているのかについて、共通基本的な知識を学習します。</p>			

授業科目(必須)	呼吸器系・循環器系疾病論	担当講師										
対象学年、開講時期	1年次後期	単位数(時間)	1単位(30時間)									
教科書等	系看・成人看護学2呼吸器疾患患者の看護、3循環器疾患患者の看護(医学書院) 系看・臨床外科看護各論(医学書院)											
ねらい												
<p>生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p>												
目標												
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</li> <li>2. 循環機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</li> </ol>												
授業内容												
《呼吸器系》(徳田;10時間、森田;4時間)												
1. 呼吸器系に障害がある時の主な症状と病態生理												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) 咳嗽</td> <td style="width:33%;">2) 喘鳴</td> <td style="width:33%;">3) 喀痰</td> </tr> <tr> <td>4) 呼吸困難</td> <td>5) 胸水</td> <td>6) 咯血など</td> </tr> </table>				1) 咳嗽	2) 喘鳴	3) 喀痰	4) 呼吸困難	5) 胸水	6) 咯血など			
1) 咳嗽	2) 喘鳴	3) 喀痰										
4) 呼吸困難	5) 胸水	6) 咯血など										
2. 主な検査												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) X線検査</td> <td style="width:33%;">2) 血液ガス分析検査</td> <td style="width:33%;">3) 肺機能検査</td> </tr> <tr> <td>4) 内視鏡検査</td> <td>5) 肺生検</td> <td>6) CTスキャン</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>7) 胸腔穿刺など</td> </tr> </table>				1) X線検査	2) 血液ガス分析検査	3) 肺機能検査	4) 内視鏡検査	5) 肺生検	6) CTスキャン			7) 胸腔穿刺など
1) X線検査	2) 血液ガス分析検査	3) 肺機能検査										
4) 内視鏡検査	5) 肺生検	6) CTスキャン										
		7) 胸腔穿刺など										
3. 主な治療												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) 酸素療法</td> <td style="width:33%;">2) 薬物療法</td> <td style="width:33%;">3) 放射線療法</td> </tr> <tr> <td>4) 肺理学療法</td> <td>5) 手術療法</td> <td>6) 気管切開</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7) 胸腔ドレナージなど</td> </tr> </table>				1) 酸素療法	2) 薬物療法	3) 放射線療法	4) 肺理学療法	5) 手術療法	6) 気管切開	7) 胸腔ドレナージなど		
1) 酸素療法	2) 薬物療法	3) 放射線療法										
4) 肺理学療法	5) 手術療法	6) 気管切開										
7) 胸腔ドレナージなど												
4. 主な疾患												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) 気管支喘息</td> <td style="width:33%;">2) 肺結核</td> <td style="width:33%;">3) 肺がん</td> </tr> <tr> <td>4) 自然気胸</td> <td>5) 慢性閉塞性肺疾患</td> <td>4) 肺炎など</td> </tr> </table>				1) 気管支喘息	2) 肺結核	3) 肺がん	4) 自然気胸	5) 慢性閉塞性肺疾患	4) 肺炎など			
1) 気管支喘息	2) 肺結核	3) 肺がん										
4) 自然気胸	5) 慢性閉塞性肺疾患	4) 肺炎など										
《循環器系》(市川;10時間、恵木;4時間)												
1. 循環器系に障害がある時の主な症状と病態生理												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) 動悸</td> <td style="width:33%;">2) 呼吸困難、息切れ</td> <td style="width:33%;">3) 胸痛</td> </tr> <tr> <td>4) 不整脈</td> <td colspan="2">5) チアノーゼなど</td> </tr> </table>				1) 動悸	2) 呼吸困難、息切れ	3) 胸痛	4) 不整脈	5) チアノーゼなど				
1) 動悸	2) 呼吸困難、息切れ	3) 胸痛										
4) 不整脈	5) チアノーゼなど											
2. 主な検査												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) X線検査</td> <td style="width:33%;">2) 心電図(負荷心電図含む)</td> <td style="width:33%;">3) 心エコー</td> </tr> <tr> <td>4) 中心静脈圧測定</td> <td>5) 心臓カテーテル法</td> <td>6) 心臓血管造影など</td> </tr> </table>				1) X線検査	2) 心電図(負荷心電図含む)	3) 心エコー	4) 中心静脈圧測定	5) 心臓カテーテル法	6) 心臓血管造影など			
1) X線検査	2) 心電図(負荷心電図含む)	3) 心エコー										
4) 中心静脈圧測定	5) 心臓カテーテル法	6) 心臓血管造影など										
3. 主な治療												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) 安静療法</td> <td style="width:33%;">2) 酸素療法</td> <td style="width:33%;">3) 食事療法(Na制限、水分制限)</td> </tr> <tr> <td>4) 薬物療法</td> <td>5) 心臓ペースメーカー</td> <td>6) PTCR, PTCA</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7) 手術療法など</td> </tr> </table>				1) 安静療法	2) 酸素療法	3) 食事療法(Na制限、水分制限)	4) 薬物療法	5) 心臓ペースメーカー	6) PTCR, PTCA	7) 手術療法など		
1) 安静療法	2) 酸素療法	3) 食事療法(Na制限、水分制限)										
4) 薬物療法	5) 心臓ペースメーカー	6) PTCR, PTCA										
7) 手術療法など												
4. 主な疾患												
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%;">1) 高血圧症</td> <td style="width:33%;">2) 心不全</td> <td style="width:33%;">3) 狭心症</td> <td style="width:33%;">4) 動脈瘤</td> </tr> <tr> <td>5) 心筋梗塞</td> <td colspan="3">6) 心臓弁膜症など</td> </tr> </table>				1) 高血圧症	2) 心不全	3) 狭心症	4) 動脈瘤	5) 心筋梗塞	6) 心臓弁膜症など			
1) 高血圧症	2) 心不全	3) 狭心症	4) 動脈瘤									
5) 心筋梗塞	6) 心臓弁膜症など											
方法	講義											
評価	筆記試験											
その他												



授業科目(必須)	消化器系疾病論	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看・成人看護学5 消化器疾患患者の看護(医学書院) 系看・臨床外科看護各論(医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>目標</p> <p>1. 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</p> <p>授業内容</p> <p>1. 消化器系に障害がある時の主な症状と病態生理</p> <p>1)嘔下困難 2)食欲不振 3)腹痛 4)吐血・下血 5)嘔気・嘔吐 6)腹水 7)排便異常 8)腹部膨満 9)出血傾向 10)肝性昏睡 11)黄疸 12)体重減少など</p> <p>2. 主な検査</p> <p>1)血液検査 2)肝機能検査 3)糞便検査 4)内視鏡検査 5)細胞診 6)放射線検査(X線検査、PTC、ERCP、血管造影 など) 7)CTスキャン 8)MRI 9)陽電子放射断層撮影(PET)</p> <p>3. 主な治療</p> <p>1)食事療法 2)経管経腸栄養法, 3)高カロリー輸液法 4)薬物療法 5)放射線療法 6)手術療法など</p> <p>4. 主な疾患</p> <p>1)歯牙、口腔疾患 2)食道がん 3)胃・十二指腸潰瘍 4)胃がん 5)潰瘍性大腸炎 6)クローン病 7)消化管憩室 8)大腸がん 9)肛門疾患 10)肝炎 11)肝硬変 12)肝がん 13)胆石症 14)胆のうがん 15)胆管がん 16)膵炎 17)膵臓がん など</p> <p>方法 講義</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p>			

授業科目(必須)	内分泌・代謝系・女性生殖器系疾病論	担当講師	
対象学年、開講時期	2年次、前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看 成人看護学 (内分泌・代謝疾患患者の看護)(女性生殖器疾患患者の看護) 系看 臨床外科看護各論 (医学書院)		
ねらい			
<p>生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p>			
目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部環境調節機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解できる。</li> <li>2. 生命の連属性をつくりだす機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解できる。</li> </ol>			
授業内容			
《内分泌・代謝系》 ( ;10時間、柴崎;2h)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌系に障害がある時の主な症状と病態生理 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)頻脈、 2)口渇 3)体重の異常 4)血糖の異常 5)テタニーなど</li> </ol> </li> <li>2. 主な検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1). 基礎代謝 2)血液検査など</li> </ol> </li> <li>3. 主な治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)薬物療法 2)運動療法 3)食事療法 4)安静療法 5)手術療法など</li> </ol> </li> <li>4. 主な疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)バセドウ病 2)クッシング症候群 3)痛風 4)糖尿病 5)甲状腺腫 など</li> </ol> </li> </ol>			
《女性生殖器疾患》 (坂巻;10時間、柴崎;4時間)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性生殖器系に障害がある時の主な症状と病態生理 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)月経異常 2)帯下 3)乳房腫瘍 など</li> </ol> </li> <li>2. 主な検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)超音波検査 2)子宮卵管造影 3)コルポスコピー 4)基礎体温測定 5)細胞診 6)頸管粘液検査 7)精子・頸管粘液適合テストなど</li> </ol> </li> <li>3. 主な治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)薬物療法 2)手術療法 3)放射線療法</li> </ol> </li> <li>4. 主な疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)子宮筋腫 2)子宮がん 3)子宮内膜症 4)卵巣腫瘍 5)不妊症 6)膣炎 7)更年期障害 8)乳がん など</li> </ol> </li> </ol>			
方法	講義		
評価	筆記試験		
その他			

授業科目(必須)	脳神経・運動器系疾病論	担当講師	
対象学年、開講時期	2年次前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看成人看護学〔7〕脳・神経〔10〕運動器 (医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳機能の障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</li> <li>2. 運動機能の障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <p>《脳神経系》 (小山;10h、武田;8h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳神経系に障害がある時の主な症状と病態生理 意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、反射性運動障害、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状など</li> <li>2) 主な検査 脳血管撮影、EEG、髄液検査、MRI、CT、MRAなど</li> <li>3) 主な治療 手術療法、理学療法、薬物療法、放射線療法、安静療法など</li> <li>4) 主な疾患 脳梗塞、脳出血、脳動脈瘤、脳腫瘍、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィー、頭部外傷、筋萎縮性側索硬化症、脳動静脈奇形など</li> </ol> <p>《運動器系》 (田代;10h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動器系に障害がある時の主な症状と病態生理 運動機能障害、腰痛、脱臼、変形、神経麻痺</li> <li>2) 主な検査 計測法、脊髄造影法、筋電図、知覚検査、関節鏡、関節液検査、生検など</li> <li>3) 主な治療 手術療法、ギプス包帯、牽引、装具、理学療法、薬物療法、安静療法など</li> <li>4) 主な疾患 骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性股関節症、慢性関節リウマチなど</li> </ol> <p>方法 講義</p>			
<p>評価</p> <p>筆記試験 試験時間(2h)</p>			
<p>その他</p>			

授業科目(必須)	自己免疫系、血液・造血器系、腎・泌尿器系疾病論	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看 成人看護学[11]アレルギー・膠原病・感染症 系看 成人看護学[4] 血液・造血器 系看 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の防御機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</li> <li>2. 造血機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</li> <li>3. 排泄機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <p>《自己免疫系》 (6h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己免疫系の疾患、症状および病態生理 SLE、AIDS・HIV感染症、慢性関節リウマチ、アレルギーなど</li> <li>2) 主な検査 抗原・抗体検査、LE細胞試験、抗原抗体反応など</li> <li>3) 主な治療 脱感作療法、免疫療法、ステロイド療法など</li> </ol> <p>《血液・造血器系》 (8h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血液・造血器系に障害がある時の主な症状と病態生理 貧血、出血傾向、白血球減少症、脾腫、リンパ節腫脹など</li> <li>2) 主な検査 骨髄穿刺、血液検査、リンパ節生検、RI検査など</li> <li>3) 主な治療 骨髄移植、輸血療法、化学療法、放射線療法、食事療法など</li> <li>4) 主な疾患 白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、多発性骨髄腫、血友病など</li> </ol> <p>《腎・泌尿器系》 (内科系;8h、 外科系;6h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 腎・泌尿器系に障害がある時の主な症状と病態生理 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿異常など</li> <li>2) 主な検査 尿検査、腎機能検査、X線検査、エコー、腎生検</li> <li>3) 主な治療 安静療法、食事療法、薬物療法、透析療法、放射線療法、ESWL、手術療法など</li> <li>4) 主な疾患 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、尿路結石、膀胱腫瘍、腎腫瘍、前立腺肥大など</li> </ol> <p>方法 講義</p>			
評価	・筆記試験 試験時間(2h)		

授業科目(必須)	感覚器系疾病論	担当講師	
対象学年、開講時期	2年次前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看成人看護学[14]耳鼻咽喉 [12]皮膚 [13]眼 (医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>目標</p> <p>1. 感覚機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</p> <p>授業内容</p> <p>《感覚器系》</p> <p>1. 耳鼻咽喉系 (8h)</p> <p>1) 耳鼻咽喉系に障害があるときの主な症状と病態生理 耳: 難聴、耳鳴、眩暈など 鼻: 鼻閉、嗅覚障害など 咽頭・喉頭: 咽頭痛、嚥下障害、音声・言語障害</p> <p>2) 主な検査 聴力検査、平衡機能検査、副鼻腔検査、内視鏡検査、画像検査など</p> <p>3) 主な治療 耳洗浄、点耳、鼓膜切開、鼻腔洗浄、点鼻、ネブライザ法、手術療法など</p> <p>4) 主な疾患 外耳疾患、中耳疾患、内耳・後迷路性疾患、外鼻疾患、鼻腔疾患、副鼻腔疾患、咽頭疾患、唾液疾患、喉頭疾患、音声・言語障害など</p> <p>2. 眼科系 (6h)</p> <p>1) 眼科系に障害があるときの主な症状と病態生理 視力障害、視野障害、色覚異常、複視、充血、流涙、羞明、眼痛など</p> <p>2) 主な検査 視力検査、屈折検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧検査など</p> <p>3) 主な治療 点眼法、洗眼法、涙嚢洗浄、涙管ブジー、光凝固、屈折矯正、手術など</p> <p>4) 主な疾患 屈折・調節・色覚の異常、眼瞼・結膜・角膜・眼底・水晶体の疾患・緑内障など</p> <p>3. 皮膚 (14h)</p> <p>1) 皮膚に障害があるときの主な症状と病態生理 発疹、掻痒など</p> <p>2) 主な検査 免疫・アレルギー検査、光線過敏性検査など</p> <p>3) 主な治療 外用療法、光線療法、手術療法など</p> <p>4) 主な疾患 表在性皮膚疾患、真皮・皮下組織および皮膚付属器の疾患、物理的皮膚障害など</p> <p>5) 皮膚ケア</p> <p>方法 講義</p>			
<p>評価方法</p> <p>・筆記試験 試験時間(2h)</p>			
<p>その他</p>			

授業科目(必須)	臨床薬理	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院		
<p>ねらい</p> <p>健康障害に対する治療の重要な柱である薬物療法の基礎知識を学び、病態生理と合わせて身体内で薬物がどのように作用しているのか学び、対象の看護の根拠とする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の特徴、作用機序が理解する。</li> <li>2. 薬物の取り扱い、管理方法が理解する。</li> <li>3. 主な治療薬剤とその特徴が理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学総論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬理学概要</li> <li>2) 薬物と法令</li> <li>3) 薬物の作用</li> <li>4) 薬物の体内動態</li> <li>5) 薬物の有害作用</li> <li>6) 薬物の保管・管理</li> <li>7) 薬剤添付文書の読み方</li> <li>8) 薬剤の濃度・量の単位の見方</li> <li>9) 新薬とジェネリック医薬品</li> </ol> </li> <li>2. 薬理学各論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中枢神経に作用する薬物</li> <li>2) 末梢神経に作用する薬物</li> <li>3) オータコイド・アレルギー用薬</li> <li>4) 心臓・血管系に作用する薬物</li> <li>5) 血液造血器系に作用する薬物</li> <li>6) 呼吸器系に作用する薬物</li> <li>7) 消化器系に作用する薬物</li> <li>8) 生殖器系に系に作用する薬物</li> <li>9) 物質代謝に作用する薬物</li> <li>10) 抗感染症薬</li> <li>11) 抗悪性腫瘍薬</li> <li>12) 漢方薬</li> <li>13) 生物学的製剤と診断用薬</li> <li>14) 薬・毒物中毒の処置</li> </ol> </li> </ol> <p>方法</p> <p>講義</p>			
<p>評価</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>治療の重要な柱である薬物療法の基本となる知識を学びます。</p> <p>病態生理と合わせて身体内で薬物がどのように作用しているか学び、その後に学ぶ基礎看護方法論をはじめとする各看護学での診療の補助技術のエビデンスとしてください。</p>			

授業科目(必須)	治療学	担当講師	
対象学年、開講時期	2年次後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看別巻5食事療法(医学書院)、食品成分表(女子栄養大学) 系看別巻7臨床放射線医学(医学書院) 新体系看護学36リハビリテーション看護(メカフレンド社)		
ねらい	回復を目的に行う医学的な処置である治療の代表的なものを取り上げ学習し、治療を受ける患者の看護を行う上での基礎的知識を得る。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事療法の基礎と各障害に伴う食事療法について理解する。</li> <li>2. 放射線の基礎知識と放射線による検査、治療について理解する。</li> <li>3. リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術の基礎が理解する。</li> </ol>		
授業内容	<p>《食事療法》 (斎藤;10h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事療法の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各栄養素の役割</li> <li>2) 栄養所要量</li> <li>3) 食品学の概要</li> </ol> </li> <li>2. 食事療法の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 消化、吸収に障害がある時</li> <li>2) タンパク・アミノ酸代謝に障害がある時</li> <li>3) 糖質代謝に障害がある時</li> <li>4) 脂質代謝に障害がある時</li> <li>5) 水・ミネラル代謝に障害がある時</li> <li>6) 食品アレルギーのある対象</li> </ol> </li> </ol> <p>《放射線療法療法》 (臨床放射線技師;10h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線療法の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 放射線とは</li> <li>2) 放射線の性質</li> <li>3) 人体に対する放射線の影響</li> <li>4) 放射線防護と健康管理</li> </ol> </li> <li>2. 各種検査と診断 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) X線診断</li> <li>2) 血管造影とIVR</li> <li>3) 磁気共鳴画像診断(MRI)</li> <li>4) 核医学診断</li> </ol> </li> <li>3. 放射線治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 悪性腫瘍の放射線感受性</li> <li>2) 放射線治療の役割と治療の原則</li> <li>3) 治療に必要な放射線量と照射回数</li> <li>4) 併用療法</li> </ol> </li> </ol> <p>《リハビリテーション》 (水野;10h)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リハビリテーションの概念</li> <li>2) リハビリテーションの展開</li> <li>3) 障害機能の評価</li> </ol> </li> <li>2. リハビリテーションの実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動麻痺と機能訓練</li> <li>2) 呼吸器疾患とリハビリテーション</li> <li>3) 心疾患とリハビリテーション</li> <li>4) 言語機能回復のリハビリテーション</li> </ol> </li> </ol>		
方法	講義 演習(献立の作成・調理実習、患者体験とリハビリテーション)		
評価	筆記試験		
その他	病態生理をふまえて各看護学を展開する時に基本となる知識です。それぞれの治療が行われることにより生じる身体内部の変化や患者の心理、治療を継続させるコツなど各看護学を展開する際に関連させて考えられることを願っています。		

授業科目(必須)	医療論	担当教員	
対象学年、開講時期	2年次後期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等			
<p>ねらい</p> <p>患者の権利、倫理問題など医療に関する社会問題・課題を概観し、医の倫理、医療活動の実際について学ぶ。 生活者の健康を守る視点から我が国の医療制度を概観し、今後の動向や医療経済について学習し専門職業人として必要な基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学・医療のあり方を理解する</li> <li>2. 医療保障制度の沿革と類型を理解する。</li> <li>3. 健康保険と保険診療について理解する。</li> <li>4. 医療制度の現状と今後の動向について理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の本質と現代医療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予防医学と診断</li> <li>2) 今後の医学・医療の方向</li> <li>3) インフォームドコンセントと患者への対応</li> </ol> </li> <li>2. わが国の医療制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康保険法の制定</li> <li>2) 生活者の健康に関する医療制度</li> <li>3) 医療制度改革と今後の動向</li> </ol> </li> <li>3. 医療保険体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康保険と国民健康保険 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保険者と対象者</li> <li>② 給付と患者負担</li> </ol> </li> <li>2) 保険診療のしくみ <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保健医療機関と保険医</li> <li>② 診療報酬と薬価基準</li> <li>③ 診療報酬の審査支払</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 演習</p>			
<p>評価</p> <p>レポート 他 (評価基準は授業で説明する)</p>			
<p>その他</p>			



授業科目(必須)	社会保障・社会福祉	担当教員	
対象学年、開講時期	2年次 後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系看専門基礎 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会福祉 (医学書院)		
<p>ねらい 社会福祉・社会保障を支える基本的な考え方を理解し、社会福祉の分野とサービスの実践活動の概要を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の理念と歴史を理解する。</li> <li>2. 社会福祉の分野とサービスの内容を理解する。</li> <li>3. 社会福祉の現状について理解し看護への活用を実際を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の意味</li> <li>2. 社会福祉の歴史</li> <li>3. 生活問題の展開と社会福祉の基本的動向</li> <li>4. 社会保障制度と社会福祉制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保険制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療保険制度</li> <li>2) 年金保険制度</li> <li>3) 労働者災害補償保険制度</li> <li>4) 雇用保険制度</li> <li>5) 介護保険制度</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>5. 社会福祉の分野とサービス <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老人福祉</li> <li>2) 障害者福祉</li> <li>3) 母子福祉</li> <li>4) 児童福祉</li> <li>5) 母子保健</li> <li>6) 生活保障制度</li> <li>7) その他</li> </ol> </li> <li>6. 社会福祉実践の共通基盤</li> <li>7. 社会福祉と医療・看護 ― 連携をめぐる課題</li> </ol> <p>方法</p> <p>講義</p> <p>評価</p> <p>筆記試験</p> <p>その他</p> <p>具体的な内容については、専門分野の各看護学においてそれぞれ関連づけて理解を深める。</p>			

授業科目(必須)	公衆衛生学	担当教員	
対象学年、開講時期	2年次 前期	単位数(時間)	2単位(30時間)
教科書等	系看専門基礎 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 (医学書院)		
ねらい <p>社会集団の健康問題について人間-環境系から理解する。疫学的診断に基づく疾病予防の方策について理解し、社会集団のニーズに対する社会医療システムの対応について学ぶ。</p>			
目標 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生学と予防医学の意義を学ぶ。</li> <li>2. 健康に関する疫学と統計情報について理解する。</li> <li>3. 健康増進・疾病予防のための保健活動の実際が理解する。</li> <li>4. 公衆衛生を取り巻く現状と今後の課題について理解する。</li> <li>5. 地域における保健活動の実際を知る。</li> </ol>			
授業内容 <p style="text-align: right;">(1~6 20時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生の目的とその方法</li> <li>2) 健康の概念と主観的健康観</li> <li>3) 権利とプライマリヘルスケア</li> <li>4) 健康の権利から健康の格差へ -アルマ-アタ宣言から健康日本21へ-</li> </ol> </li> <li>2. 疫学と健康指標</li> <li>3. 公衆衛生の法・制度・しくみ</li> <li>4. 公衆衛生の対象と活動(地域保健) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母子保健</li> <li>2) 成人保健</li> <li>3) 高齢者保健</li> <li>4) 精神保健</li> <li>5) 障害・難病</li> <li>6) 歯科保健</li> <li>7) 感染症対策</li> <li>8) 学校保健</li> <li>8) 職場における保健活動</li> <li>9) 環境</li> </ol> </li> <li>5. 健康危機管理・災害保健</li> <li>6. 公衆衛生と現代社会</li> </ol> <p>[7. 地域調査(新宿区の概要) 演習(10h) ] (専任教員が担当します)</p>			
方法	講義 地域調査—演習		
評価	筆記試験		
その他			

授業科目(必須)	医療と法律	担当教員	
対象学年、開講時期	2年次 後期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等	系看 専門基礎 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 (医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>生活者の健康を守る視点からわが国の医療制度を概観し、人の生活における法の概念と法制度について理解する。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間生活と法律の関係について理解する。</li> <li>2. 法の概念について理解する。</li> <li>3. 保健医療における法の意義、仕組みを理解する。</li> <li>4. 医療過誤の概念を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間生活と社会規範</li> <li>2. 法の概念について <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成文法、不文法</li> <li>2) 法と道徳</li> <li>3) 法の種類</li> </ol> </li> <li>3. 保健医療と法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 衛生法規とは</li> <li>2) 厚生行政の仕組み</li> </ol> </li> <li>4. 医療過誤の概念</li> </ol> <p>方法</p> <p>講義</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記テスト</p>			
<p>その他</p>			

授業科目(必須)	看護と法律	担当教員	
対象学年、開講時期	3年次 後期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等	系看 専門基礎 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 (医学書院) 看護六法 (新日本法規)		
<p>ねらい</p> <p>看護職者の関わる法制度を理解し、人の生命に関わる看護師の身分、業務、責務を学ぶ。医療過誤発生時の問題と看護師の法的責任について理解し、専門職業人として自覚した行動がとれるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における法的基盤を理解する。</li> <li>2. 看護実践における法的責任および医療事故における法的責任を理解する。</li> <li>3. 患者の安全を守るだけでなく、看護職の安全を守り、環境の保護も視野に入れて法のしくみを学ぶ。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における法律</li> <li>2. 衛生法規 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医事法規</li> <li>2) 薬事法規</li> <li>3) 公衆衛生法規</li> </ol> </li> <li>3. 看護と関係法律 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護活動の根拠法令－保健師助産師看護師法</li> <li>2) 看護職と関係する法律－コメディカルに関する法律</li> <li>3) 生き生きと働く看護職に関する法律－看護師等の人材確保に関する法律</li> <li>4) 看護活動に直接・間接にかかわる法律</li> <li>5) 看護職の責務と医療過誤</li> </ol> </li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 グループワーク レポート課題</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記テスト</p>			
<p>その他</p>			